

2011年(平成23年)1月27日(木曜日)

「132億歳」最古の銀河

米の研究チーム ハッブルで観測

観測史上、地球から最も遠い銀河を、米国の研究チームがハッブル宇宙望遠鏡で見つけた。地球からの距離は約132億光年。137億年前の宇宙誕生から約4億8000万年後に

生まれた銀河だという。初期の銀河の形成過程に迫る重要な観測結果だ。成果は27日付の英科学誌「ネイチャー」に掲載され、観測した米航空宇宙局(NASA)も記者会見する。

これまでの記録は、昨年10月に欧州チームが報告した「131億光年」だった。

銀河は、遠いものほど誕生した時期が古い。研究チームは、2009年にハッブル望遠鏡に追加された広視野カメラで、「ろ座」という星座の方角を詳細に観測した。また星の生成は、この銀河の誕生から2億年ほどで急に盛んになり、こ

の時期が宇宙進化の様子が急変する節目となることも確かめた。

国立天文台の家正則教授は、「ハッブルやすばる望遠鏡の性能で得られるほぼ限界の観測結果だ。これより遠い銀河の観測は、日米で検討中の次世代大型望遠鏡を待たないと難しいだろう」と話している。